



後

後

位濃國佐より取姨於やうり
傳る岩戸のやうり所より去来る碑と
ものして好士各所詣の神宮招き
け受りて在門の車指とよふは
常より同公守るの癖あつても必おの
雲あつに在ちる物一つてくねりハ

古き姨石入發句に因縁と云ふ
彼口のなほいせし物一体をたのむ
るはねが端すゝあこも目に
宕滔とせくくあつゝ田はら
思へく雲門禪師の撰書州和尚
茶味にふゝあつゝ

桃青院
重厚子

叙

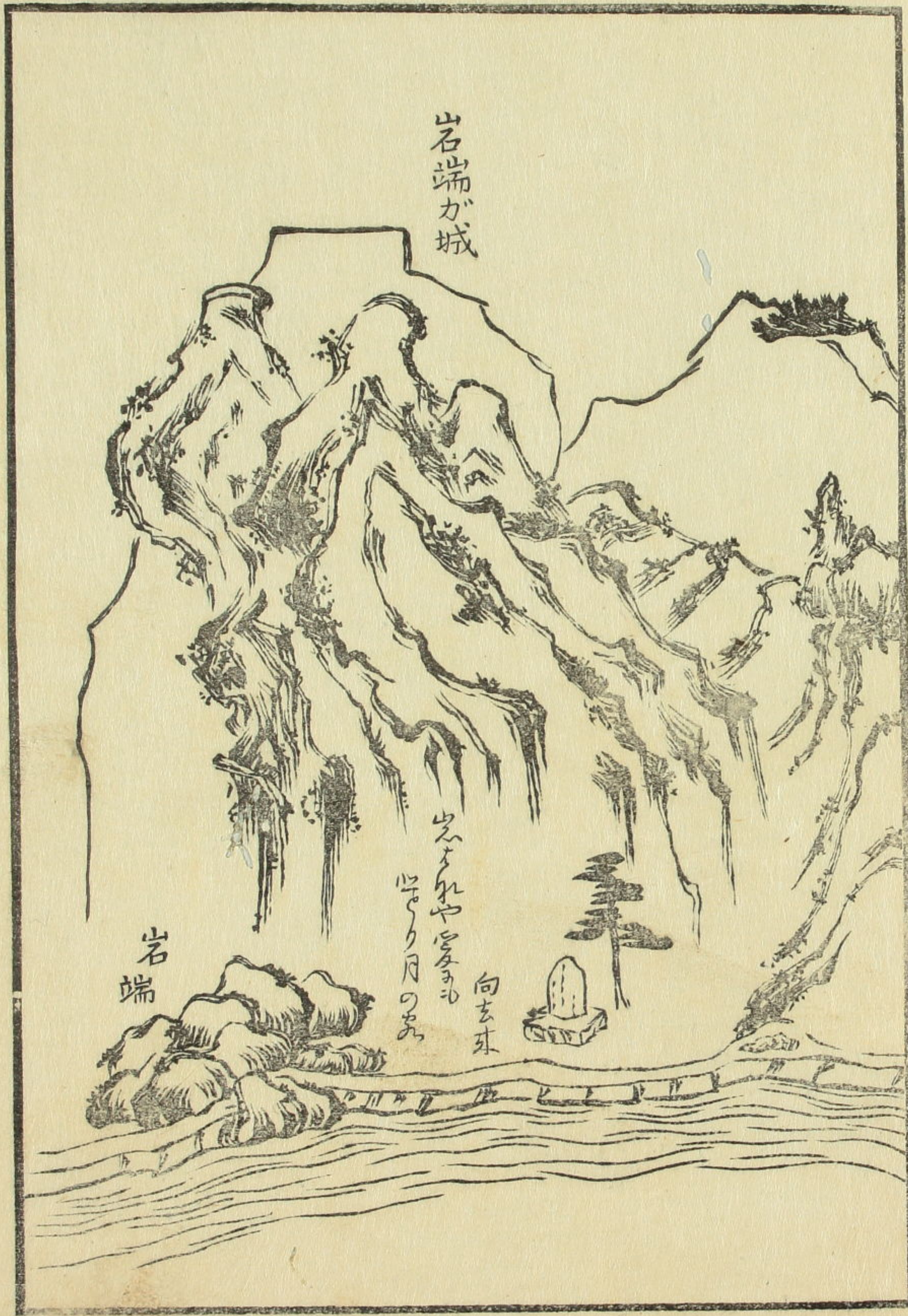
匠の所三斎民事五音のあつゝ
午に奉甲作も紅脚のたむらねを
十日餘りの佛をたふ齋をたむらね
つくつ所の選淨を拈て彼心縣都
少くおの地を御代建玉を謀る
余日天ゆし地をたふ御代たむら
動し先皇石地御代境と云ふ
諸の御事御代境と云ふ
たむらね御代境と云ふ

終十曲の伝承流重城の守り石
所推しの多き入り力を保てる美流の
國のついでに

主一とてまはしりし海のついでに
様をみりしついでに
よ一約すゝついでに
はかぬ城をみりしついでに
ついでに
ついでに

一巻の連歌とてあはれついでに
社も一巻の連歌とてあはれついでに
ついでに
ついでに
ついでに
ついでに
ついでに

ついでに



碑裏

去來塚之碑

峨阜之落柿窠曾有巖端月客之吟蕉翁深美之
世人博傳之矣惟茲信州小縣郡鹽尻巖端之地
與更級郡相鄰也蓋柿窠嘗為觀月過此地仍景
而發興者歟他雖有此名亦不妨為矣此地也上
負古城崑巒百丈下臨大川滄波萬頃有田圃也
有村落也富於攀躋矣瞻於眺望矣騷士一視之
不能無吟懷然則柿窠之吟於此必然者也方今
寬政十一年己未春三月諏諸鹽尻之風士以勒

碑乎路傍石上青雲福氏者傾心而介之明齋履
氏者竭力以務之曉雲履氏者亦汲_二勦于此且
衆力之所致不日成之因作其銘曰

崑崙崑端 西鄰更科 高厓屈曲 大路陂陀

摩眼羣嶺 滌腸長河 飄_二俳窠 曩在嵯峨

隴彼月秋 旅況其何 崑端佇立 相客即歌

維吟維境 昏得維多 豈斯雅事 復曰之他

謀衆修謁 爰建岩阿 福氏盡心 履氏擇挖

兩霜攸曝 日月攸過 隱然之石 不騫不叱

武州蒼梅小菴菴支兀謨并書

雪舟の類は

檀波の國の雪舟

一
 曲のま 珠川の 穂に せきさ 入交
 新のの せきさ 乃 穂に せきさ 入交
 一
 曲のま 珠川の 穂に せきさ 入交
 新のの せきさ 乃 穂に せきさ 入交

雪舟
 雨若
 世徳
 吟長
 雪川
 荷流
 美戸
 籬矢
 雲浦

可憐
 夜者
 世の業はつれ小娘のまじり
 見ゆらばしんか
 止齋
 以良
 南川
 長
 夕
 吹

士
 元
 丁佐
 乍夫
 林牛
 仙
 懐
 執筆

日向坂白子舎
 信岩徳社中

ヨリシテノイシノイセ
松ノ中
七瀬
七瀬
シメノ
シメノ

川柳
七瀬女

松ノイセ
七瀬女

碑ノイセ
七瀬女

七瀬女

九

城ノ載
七瀬女
七瀬女

吹
七瀬女

松ノイセ

七瀬女

七瀬女

七瀬女

月ノイセ
七瀬女

八八

八八

十二

七瀬

七瀬

七瀬

七瀬女

七瀬女

七瀬女

七瀬女

七瀬女

七瀬女

尾持翁の家傳しるは
 光る如く侍御も 白梅の月
 丁々かせし 帰るよの葉
 成ぬよし 廟のし 小松 花のさき
 綴の跡も きよしく ふゆの
 編笠比 せむみの 手巻の巻
 涼しんすり 梅乃夕を
 細くくし 夢のさき 燈乃光
 市の應之のすまはし 月
 物好まる 角紙のし 月
 斗光
 阿山
 夕

尾持翁の家傳しるは 乃月
 記念しる 乃月 雪左
 けりし 乃月 凡然
 脈のし 乃月 雪左
 きれし 乃月 梅青
 二三人 乃月 百可
 燒田のし 乃月 香保
 生國のし 乃月 聖雲
 酒のし 乃月 貞宇
 永のし 乃月 梅古
 乃月 尉
 乃月 尉
 乃月 尉

控さうり此ふ乃わもあ
 女まへんくはさうり
 敵う月う風ま 好免乃り
 中さきんらうさうり
 新 新 新 新 新
 姉さげさうり
 河さ娘にさうり
 形の林うり
 境さうり
 甲さうり

推馬
 佐才
 許宗
 由庚
 雪人
 井徳
 小也
 初新
 文宗
 左

屋さうり
 さうり
 山
 川
 才
 羅
 几
 柳

石
 子向各
 武倉梅
 暮年社中

らみそに中をたけ解らす可なり
 其の
 味もよしと書くは好むに非ず
 維新女
 新米味もよしと書くは好むに非ず
 陽春
 舟の路行もよしと書くは好むに非ず
 雪舟女
 腰もよしと書くは好むに非ず
 記者
 如しと書くは好むに非ず
 大友
 昔もよしと書くは好むに非ず
 里童

伊集社中

わるい月ハカクハ
 仙風
 舟カ好むは好むに非ず
 雁原

らみそに中をたけ解らす可なり
 其の
 味もよしと書くは好むに非ず
 維新女
 新米味もよしと書くは好むに非ず
 陽春
 舟の路行もよしと書くは好むに非ず
 雪舟女
 腰もよしと書くは好むに非ず
 記者
 如しと書くは好むに非ず
 大友
 昔もよしと書くは好むに非ず
 里童

伊集社中

らみそに中をたけ解らす可なり
 其の
 味もよしと書くは好むに非ず
 維新女
 新米味もよしと書くは好むに非ず
 陽春
 舟の路行もよしと書くは好むに非ず
 雪舟女
 腰もよしと書くは好むに非ず
 記者
 如しと書くは好むに非ず
 大友
 昔もよしと書くは好むに非ず
 里童

伊集社中

らみそに中をたけ解らす可なり
 其の
 味もよしと書くは好むに非ず
 維新女
 新米味もよしと書くは好むに非ず
 陽春
 舟の路行もよしと書くは好むに非ず
 雪舟女
 腰もよしと書くは好むに非ず
 記者
 如しと書くは好むに非ず
 大友
 昔もよしと書くは好むに非ず
 里童

い通

かきつねの乃々さき

法 甚し蓮堂

かきつねの乃々さきの月

倉札

信中

鴨 崎 川 流 石 舟 舟 舟

下塩尻 城白

精 の 女 也 一 流 石 舟 舟 舟

馬首

石 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

蓮石

時 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

美衣

秋 の 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

曲石

横 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

瀨石

十五

物 の 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

素明

折 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

左丘

よ 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

其年

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

神云

笛 吹 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

上田 芳洲

河 堂 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

照古

十 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

之根

と 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

雪輝

稲 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

為隣

と 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

素山

二かゝるに友をたのむ乃れり
 早乙女乃小端にほしす
 機もよきかゝるもよき
 後の時々國をたのむ
 種もよき解もよき
 舟もよき月もよき
 汐もよき梅もよき
 父の文植もよき
 塊もよき
 舟のよき

善友
 雨柳女
 雙る
 如悠
 之雅
 悠之
 一壺
 破豆
 和友

一掌
 後船
 長女
 植南
 文下
 妻通
 和女
 文魚
 大庄
 押井
 草履

岸乃山公野あろくく一ありま理
梅のまろく一岡も志とれわもろ
いせ一梅まらろくのかくれ月之
縁ゆまろ一のりふなれくつ菊
秋の秋も梅まろや雪れ秋并
梅のまろく一梅も一にのれ梅の并
去れ梅のあろく公日あれあろ
細まろろく中まろ山をえよろ
川あろく一くろく梅の山
素川 富山 梅之 意求 雲希 雲裕 止好 一葉 鉄舟

本ろく一梅くまろあろく一あ山
あろくのあろく実よりあろく梅か
あろく一あろく一甲斐あろくあろく観
少れあろく一梅まろあろくあろく
院あろくあろく一梅まろく一あ月
あろくあろくあろく一あ月あろく
あろくあろくあろく一あ月あろく
あろくあろくあろく一あ月あろく
あろくあろくあろく一あ月あろく
あろくあろくあろく一あ月あろく
あろくあろくあろく一あ月あろく
あろくあろくあろく一あ月あろく
あろくあろくあろく一あ月あろく

岸山 素川

鉄舟

一葉

止好

雲裕

雲希

意求

梅之

富山

素川

文我

回候

文貫

権馬

白太

屋白

法一

あろく

五什

文兆

名をくは 神之く ありのく
狂言をたに 家を成 ありをた
山 狂言
まきの ちをまわすく
まきの ちをまわすく
まきの ちをまわすく
まきの ちをまわすく

く 月を 舞い 吹矢の 旗を
く 月を 舞い 吹矢の 旗を
く 月を 舞い 吹矢の 旗を
く 月を 舞い 吹矢の 旗を
く 月を 舞い 吹矢の 旗を

く 月を 舞い 吹矢の 旗を
く 月を 舞い 吹矢の 旗を
く 月を 舞い 吹矢の 旗を
く 月を 舞い 吹矢の 旗を
く 月を 舞い 吹矢の 旗を

種をまわす 新もろを 花もろの 月
種をまわす 新もろを 花もろの 月
種をまわす 新もろを 花もろの 月
種をまわす 新もろを 花もろの 月
種をまわす 新もろを 花もろの 月

狂山

山

狂言

まきの

まきの

まきの

まきの

まきの

まきの

まきの

狂言

狂言

狂言

狂言

狂言

狂言

狂言

狂言

狂言

狂言

晴れ渡る空の隅に
 秋の暁が
 花の香りを
 風に流す
 夕陽の輝き
 水面に
 映り出す
 遠くまで
 響き渡る
 鳥の鳴き声
 大地の隅々まで
 届くまで
 静寂の中で
 心は
 静かに
 沈んでゆく

確永峰

月影も 霞も 波の海流し 如雪

二十
峰島

上毛

稲の穂が 秋の風を
 揺るがす
 夕陽が 空に
 染まる
 鳥の鳴き声
 が 遠くまで
 響き渡る
 静寂の中で
 心は
 静かに
 沈んでゆく

三十一
桑希
 秋
 信
 其雄
 体更
 冬和

鳩 早しき 枝 入るる

賛名

の 枝 入るる 花 入るる

玉更

の 枝 入るる 花 入るる

新葉

の 枝 入るる 花 入るる

草花

の 枝 入るる 花 入るる

園明

の 枝 入るる 花 入るる

文和

の 枝 入るる 花 入るる

玉更

の 枝 入るる 花 入るる

十五保

の 枝 入るる 花 入るる

白起

の 枝 入るる 花 入るる

十五元

金二十一

無 解 方 之 枝 入るる

園蝶

の 枝 入るる 花 入るる

かな

の 枝 入るる 花 入るる

果真

の 枝 入るる 花 入るる

福保

の 枝 入るる 花 入るる

里

の 枝 入るる 花 入るる

大希

の 枝 入るる 花 入るる

十五泉

の 枝 入るる 花 入るる

北之志

の 枝 入るる 花 入るる

十五葉

高松の山々を歩くと
湖のほとりには
松竹の影が
表裏に映る
松竹の影が
鳳凰の
泉の
破水の
松竹の
高松の

高松の山々を歩くと
湖のほとりには
松竹の影が
表裏に映る
松竹の影が
鳳凰の
泉の
破水の
松竹の
高松の

断をたぐり母おーしりし結相撲京都 曲肱
 花の山流るる人し押あふび全 寺宇
 標ありたるかしそ森を乃山 東川
 流はたしるるさきさきとささかすか多 法見
 夕月や雪を海の晴の原全 白藤
 陽空より菊の花まくらぬの形 花六
 茶心書り御持を魚流の上 冬宜
 夕月の義心持をすねる向の力一の歌 甘花女
 下産しあふあしおのこなき夕櫓 夕女
 舟楫書片山流所は車より勝 佛足尼

市中也 桃あしそ夕遊のんぎ 杜春
 りのころもれあしり遊まのちかき全 御言
 眼女乃重井がしそ扇の形 頼希飯能
 新入るる江尻のころ 柳の香 玉波
 浪花書も雪をし沈むる所所が 法波
 城のあや 庭より清女の折扇 吳秋
 夕月のあや 遠くあふりそをの山 折景
 霧降のころを 柳花のころのた 鞆之
 夕の更世をのりまをとの霧の松しもみ 碩希
 昔直義のころ 夕のあまのころあはれ月二つを 兎明

世が... 向... 由
成... 時...
... 菊
... 五
... 伊
... 左
... 昔
... 松
... 堀
... 三
... 号

... 十
... 櫛
... 練
... 石

甲

甲... 練
... 櫛
... 石
... 練
... 石
... 櫛
... 石

名目也 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り
涼 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り

おきく 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り
秋の川 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り
土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り

列國

おきく 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り

おきく 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り

土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り

信上田

おきく 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り
おきく 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り
おきく 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り

おきく 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り

おきく 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り

おきく 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り

おきく 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り

おきく 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り

おきく 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り 土り

諏方

おきく 土り

虹幡はくはを白く打ちたり 自徳
志は雲やしらけゆくはたのけこと 素癖
縁ありまのりや日影なるをきりや 柳在
掃くも草の塵をまきとまげし 猿丸
りよりまよひあはる免ぐれ山根に 上毛小
いそよれやりの浮も月の子 武徳
ハッホも雲かきくもねくもまよふ 月推
いそや人かきくも雲の影 半子
ははたかきくも雲の影 長巻
をたかきくも雲の影 巢山

二十八

みるも雲をまきくもねくもまよふ 枯屋
くも雲をまきくもねくもまよふ 春
利根の流すまきくもねくもまよふ 帰重
あきも雲をまきくもねくもまよふ 成美
満月の光をまきくもねくもまよふ 富三
峰の雲をまきくもねくもまよふ 春
人あきも雲をまきくもねくもまよふ 大水
いそよれやりの浮も月の子 可成屋
日をおむす雲の影 可成屋
雲の影をまきくもねくもまよふ 可成屋

可成屋 月田

うら 枯や木かあだり 四十一年 府 野奴
霧や古き雲あまき 秋の 奥 仙 白居易
雷の ちりさき けり 律 大
うら 花乃 満月うら 乙二 白之
人の 扇ゆり 思よ 冥く 元字
あまき 秋の 牛の 鼻あうら 秋 夫
うら 草の けり 首 彦 貴
花中 一回も 長き 柳の 平 角
み 柳の ちりさき 一 柳 一 州
花の ちりさき 素 御

うら 花の ちりさき 五 頁 羽 秋 田
霧の ちりさき 五 明 越 之 岡
霧の ちりさき 白 雲
霧の ちりさき 秋 雁
霧の ちりさき 青 河
霧の ちりさき 牧 之
霧の ちりさき 竹 之
霧の ちりさき 几 丈
霧の ちりさき 祖 阿
霧の ちりさき 斗 入 智 列

眉山 眉
車太 車
馬佛 馬
草池 草
羅城 羅
方明 方
お汝 汝
岳 岳
士綱 士

伊豫 伊
橋堂 橋
長つゝ 長
岩屋 岩
豊後 豊
杜由 杜
百々 百
筑前 筑
青人 青
云友 云
如瓶 如
為律 為

徳川もわきまらぬ 杖堂 ^{伊勢}
 梅うらやみのからけり ^{五蓮}
 りはやくのやうに ^津
 りはやくのやうに ^{青川}
 二子 ^{大坂}
 梅便 ^{自樂}
 魯隱 ^{長齋}

三十一
 近江 月川
 馬涯
 千乳
 蝦山
 湖岸
 又呼
 春女
 方廣
 春峰

けをいかにせよとてわたりてむにを
わたりていかにせよとてわたりてむにを
福の命はむにせよとてわたりてむにを
月居

尾持命

中川舟早人の逢瀬乃鳥貝 大彦

岸向家の白くおたなまを
義仲寺
祐昌

三十一



小舟きぬの舟

地青院

重厚

あやうし
あやうし

多岐の山に千曲の
川のちりちりなる響
とらけのたけのちりちり
の響とたけのちりちり
響かせしにたけのちりちり

たけのちりちりたけのちりちり
たけのちりちりたけのちりちり
たけのちりちりたけのちりちり
たけのちりちりたけのちりちり
たけのちりちりたけのちりちり

清くもいさよひに
風は吹かす
祖の留新の
右に

~~~~~

# 南無阿弥陀仏

追加

月夜に 雲の影 柳の影  
花の影 葉の影  
草の影 木の影  
水の影 空の影  
鳥の影 虫の影  
人の影 物の影

上毛沼田師

沼田 素列

沼田 宗孝

月夜中 美紅女

真水

不  
題巖端集之後

山風月涌曲江干  
或叟遺篇穿  
石寒為駐徘徊鐘  
秀卷千煠萬

古炳巖端

小叢菴支元



信明齋藏

寬政十二庚申三月出

東都書林

本石町二町目

西村源六壽梓

殿工朝倉藤八



